

競泳有終の銅



男子400メートルメドレーリレーで獲得した銅メダルを手に笑顔を見せる(左から)奥村、山本、北島、森田の各選手=水泳センターメインプール(共同)

最強4人で44年ぶりメダル

【アテネ二十一日共同】アテネ五輪第9日の二十一日、競泳は最終日で決勝4種目を行い、男子四百メートルメドレーリレーで3人の個人種目メダリストをそろえた日本(森田智己、北島康介、山本貴司、奥村幸大)は3分35秒22の日本新で銅メダルを獲得した。この種目の日本のメダルは1960年ローマ大会の銅以来。第1泳者の森田は百メートル背泳ぎで54秒25の日本新。今大会の日本競泳陣のメダルは金3、銀1、銅4で戦後最多の8個となった。

米国が3分30秒68の世界新で6連覇を飾り、第1泳者のアロピ・ピアソルは53秒45の世界新。アンカーの奥村が逃げる。チームメイトが大声援を送る中、3位でゴールした。奥村の渾身(こんしん)のガッツポーズに、4人の熱い思いがこもった。百メートル背泳ぎで銅の森田、平泳ぎ2冠の北島、二百メートルバタフライ銀の山本の「金銀銅トリオ」でできるだけ貯金をつくって逃げ切るのが、メダルへのシナリオだった。

トップバッターの森田が道を切り開く。銅メダル獲得のレースを上回る日本新。エースの北島が先行するハンセン(米国)に迫り、山本が奥村に引き継いだ時点で米国に次ぐ2位。4位ロシアとは2秒42の大差を付けた。奥村はドイツに抜かれたが、ロシアの「皇帝」ポポフを振り切った。各種目の百メートルで日本記録を持つ4人が力を合わせ、日本新を樹立した。